

## V45c NOGIS システム改修によるコロナ絶対強度補正係数の再計算

木挽俊彦、篠田一也、金子慶子、一本潔 (国立天文台)、Jagdev Singh(インド天体物理学研究所)

乗鞍コロナ観測所では1949年の開所以来、太陽コロナの輝線強度の測定を行ってきた。1997年にはそれまでの直視分光器による眼視観測から、リオフィルタと冷却 CCD による2次元観測を可能とした NOGIS (Norikura Green-line Imaging System) による観測に切り替え、コロナ輝線強度の測定を続けてきた。

しかし、2002年5月26日の落雷により、冷却 CCD カメラなど大きな被害を受け、CCD カメラの交換など大きなシステム改修を余儀なくされた。さらに昨年7月にも絶対輝線強度を決定する上で重要な太陽光量測光システムの改修も行われた。これらの改修以降、コロナの絶対輝線強度を求めるためには、同観測所の25cm コロナグラフの分光器と同時観測を行い、相互でコロナ輝線強度を求め比較し、補正係数を求めなければいけない。

2003年9月22日に NOGIS と25cm コロナグラフで同時観測を行い、補正係数の再計算を行った。本公演ではその結果および、CCD カメラの変更と太陽光量測光システムの改修に伴う新しい NOGIS の観測緒言について報告する。